



**平成二十七年度
全日本珠算選手権大会が京都で開催される**

競技部長 竹内 史寿

八月八日、今年も国立京都国際会館全日本珠算選手権大会が開催されました。京都は江戸時代の初期、毛利勘兵衛重能によって、我が国最初の珠算道場が開かれ、珠算塾が全国に広がったという、日本の珠算の発祥の地だそうです。夏の京都は暑いと言われていますが、今年は最高気温三十六度という、例年よりも一際厳しい暑さの中、外の気温に負けないほどの伝統ある熱い闘いが繰り広げられました。

今年の参加者は小学生百四十五名、中学生百九十二名、高校生百四名、大学生四十六名、社会人七十七名の合計五百六十四名。静岡県からは、小学生五名、中学生三名、高校生四名、社会四名の十六名の参加となりました（小学生一名は体調不良のため当日欠席）。

「己の全てをこの一珠に懸ける」日



発行者
一般社団法人 静岡県珠算協会
公益社団法人 全国珠算教育連盟静岡県支部
(静岡市駿河区八幡2丁目)
茂世 刷
村田 佳印
松山 やまだ
人編集 印刷所

本一になるために、日本全土の珠の道を究めし者たち。その頂点を決める戦い「いざ勝負」と始まり、全選手の氏名が表示される壯厳なオープニングに続き、開会式が行われた後、早速、フラッシュ暗算競技の開始です。フラッシュ暗算は三桁十五口四秒からのスタートです。さすがは全日本、一問目はほとんどの選手が正解です。その後、三秒、二・五秒、二・一秒と進み十五名まで絞られました。そして、一・九八秒をクリアした八名が入賞となりました。さらに一・八五秒で残り二名、浅野貴広選手（十九歳、小樽商科大学二年）眞田美歩選手（三十歳、北海道警察）という道央勢同士の対決となりました。次の一・八秒は二人共正答、一・七五秒、一・七六秒、一・七七秒では二人共正答せず、一・七八秒では二人共正答ともつれましたが、再度一・七八秒を行つて浅野貴広選手が正答し、優勝となりました。

次は個人総合競技です。今年は参加者が多かつたことから、個人総合競技はAグループ（珠算・暗算の合計得点位十五段以上）とBグループ（十四段以下）に分けて行われることになりました。まず最初にBグループの個人総合競技と読上予選が行われ、続いてAグループの個人総合競技です。乗算・除算・見取算の珠算種目は各三分三十秒、乗暗算・除暗算・見取暗算の暗算種目は各一分三十秒、合計でもたつた（小学生一名は体調不良のため当

十五分のこの一瞬のために、厳しい練習を重ねてきた選手たちのピンと張りつけた緊張感と気迫が観客席にまで伝わってきます。Bグループは引き上げ採点、Aグループは交換採点が行われ、いいよ、そろばん日本一の決定です。今年は千四百八十点以上が十三名、うち、東京の原子弘務選手（十九歳・早稲田大学二年）と宮城の土屋宏明選手（二十九歳・土屋そろばん教室）の二名が千五百点満点で決勝戦が行われることになりました。決勝戦は乗暗算・除暗算・見取暗算の各五問計十五問を制限時間四十五秒、乗算・除算・見取算の各五問計十五問を制限時間一分四十五秒で競われます。原子選手は昨年に続く満点での決勝進出、土屋選手は過去六回の優勝経験を誇る名選手、ステージ上の対決を会場全体が固唾を飲んで見守ります。最初に暗算種目が行われ、土屋選手が二十九・三二八秒で七十五点満点、原子選手が三十四・四六三秒で七十点と、土屋選手が一步リードします。残る珠算種目は原子選手が勝負を賭けて一分十七秒七八一のタイムで挙手、土屋選手は制限時間を使い切つて万全を期す体制です。結果は珠算種目は二人とも満点で、土屋選手が二年ぶり七度目のそろばん日本一になつて）思うように練習時間が取れなかつたけれど、工夫して練習できたの

が逆に良かつたのかなと思います」と話していましたが、ステージ上でも決勝戦開始直前まで練習を続け集中力を高めている様子がとても印象的で、寸暇を惜しんで努力してきたことが伺われ、会場全体が心からの拍手喝采を贈りました。

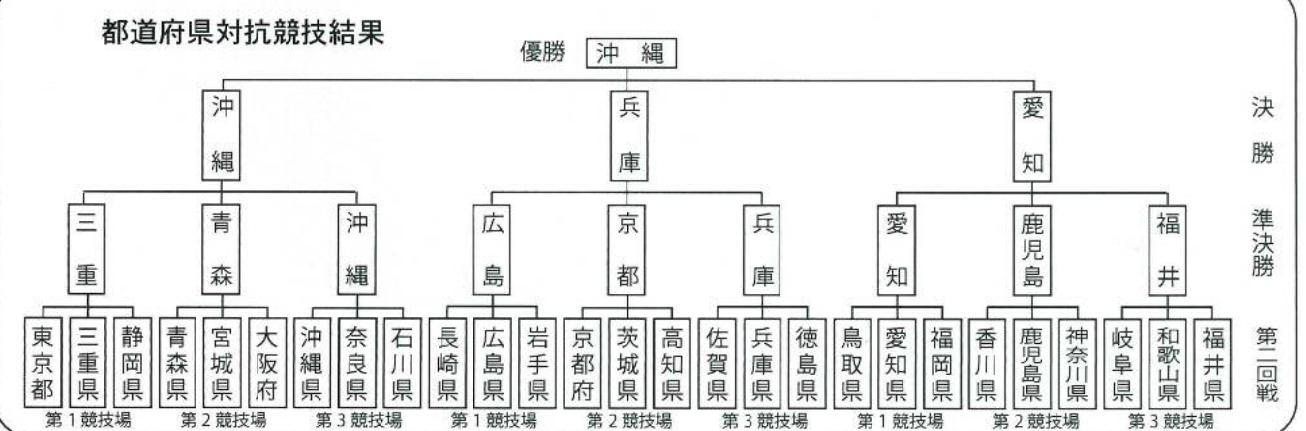
昼食休憩を挟んで、読上暗算競技です。全日本では読上種目は上位先決で行われますが、第一問の五〇十六桁加減算、第二問の五〇十六桁加算では正答者は出ず、第三問の五〇十五桁加減算を正答した千葉の金子優希選手（二十六歳・京葉銀行）が優勝、第四問の五〇十五桁加算を正答した土屋宏明選手が二位となり、第七問の五〇十三桁加減算を正答した四名までが入賞となりました。

続く読上算競技では、第二問の七〇十六桁加算を正答した千葉の北村瑠菜選手（十七歳・千葉商業高校三年）が優勝、第四問を正答した金子優希選手（二十六歳・京葉銀行）が優勝、第六問の五〇十五桁加算を正答した西尾貞子選手（浜松市役所）が代りました。

表選手として競技に臨むことになりました。今年も静岡県は二回戦からの参戦となりましたが、強豪揃いのAブロックで、原子弘務選手率いる東京都、杵川日向雅選手率いる三重県との対戦となり、三重県が十二点、東京都が九点、静岡県は四点と残念ながら準決勝進出は果たせませんでした。都道府県対抗競技の決勝戦は、Aブロックを制した沖縄・Bブロックの兵庫・Cブロック突破の愛知の対戦となりました。ステージ上で行われる決勝戦は迫力満点、会場にも一戦ごとにどよめきが起ります。一種目めは乗算で、沖縄が一番二番正答で十七点、兵庫七点、愛知四点と沖縄がリードです。二種目めは見取算で、沖縄が二番三番正答で十一点、兵庫十二点、愛知二点と、沖縄県が勝利し、沖縄県の優勝が決定しました。

この後、小学生の優秀選手十名が発表され、千四百七十五点で磯貝勇誠選手（京都・小五）が小学生日本一となりました。この十名のうちには、三年生（岐阜・不破花菜選手）、四年生（埼玉・辻窪凜音選手）に加え、磯貝選手他五年生が五名含まれており、来年の激戦が予想されます。

そして最後のクライマックス、都道府県対抗競技です。この競技は各県代表の小学生・中学生・高校生以上の三名が一チームとなり、速さと正確さを競います。広い会場で一チーム三名×三チーム×三競技場の二十七人だけで競技を行う都道府県対抗競技は個人総合とは一味違った緊張感が漂います。静岡県チームは当日の成績によって決定とした結果、小学生は野沢優志選手（清水船越小六年）、中学生は清水裕貴選手（湖東中一年）、高校生以上は西尾貞子選手（浜松市役所）が代替選手として競技に臨むことになりました。今年も静岡県は二回戦からの参戦となりましたが、強豪揃いのAブロックで、原子弘務選手率いる東京都、杵川日向雅選手率いる三重県との対戦となり、三重県が十二点、東京都が九点、静岡県は四点と残念ながら準決勝進出は果たせませんでした。都道府県対抗競技の決勝戦は、Aブロックを制した沖縄・Bブロックの兵庫・Cブロックで開催されたために、宿泊の手配が思うようにできず、複数のホテルに分宿することになつたり、ホテルが地下鉄の駅から遠かつたりと、気を揉むことが多かつたのですが、無理を言ってご同行いただいた荒木田先生をはじめ、栗田副支部長、澤田先生、佐々木先生、熊谷先生など皆様のご協力のおかげで無事乗り切ることができました。ありがとうございました。来年も八月八日に京都での開催となりました。



**平成二十七年度
(公社)全珠連静岡県支部 第一回常任委員会
二社)静岡県珠算協会 第一回理事會**



〔日時〕 平成二十七年八月二日（日）
午後一時三十分～午後三時三十五分

〔会場〕 静岡県珠算会館

〔出席者〕 松村 茂、栗田昭男、深澤
好胖、荒木田富枝、山田佳世、竹内史
寿、伊藤弘之、松下順次、加藤憲一、松家
徳増久夫、伊藤奈津「そろばんから
う」
俊夫、宮崎健次、里見恵子、原 純代、
柴田雅代、高橋史代、望月公子、久保
寺波留恵

〔研修部〕
一、報告事項

（全珠連検定部）
七月検定の受験者が予算数を下回った

〔競技部〕
と/orの報告

①平成二十七年度 全日本珠算選手権
大会

日時：平成二十七年八月八日（土）

会場：京都国際会館

静岡県参加者：小学生五名、中学生
三名、高校・一般八
名 合計十六名

②平成二十七年度 全日本通信珠算競
技大会

日時：平成二十七年十月十八日（日）

会場：県下六会場で従来通り開催

今年度より中学生以上の問題
が改訂されています。

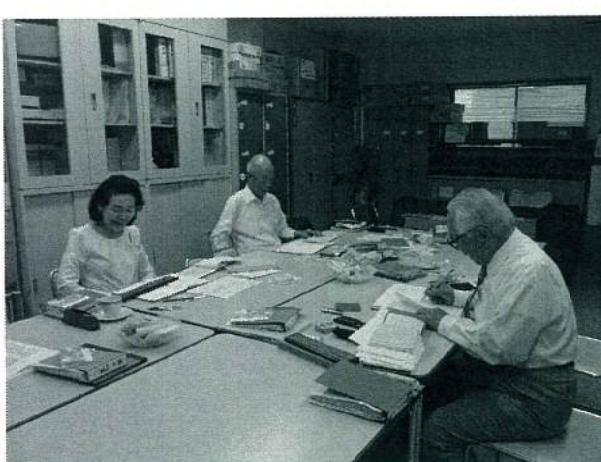
二、定足数報告

荒木田副支部長より出席状況について
（公社）全珠連静岡県支部常任委員会

役員総数二十名 議決権十八名
監査委員一名 出席総数十九名
本人出席十九名
役員総数十五名 議決権十三名
監事二名 出席総数十五名
本人出席十五名
いずれも定足数を満たしており議事
は有効に成立している旨の報告があ
つた。

三、議長選出及び議事録署名人指名
全珠連静岡県支部、静岡県珠算協会
の双方とも松村 茂支部長（会長）
を議長に選出し、議事録署名人、（公
社）全珠連静岡県支部は、松村支
部長、松家監査委員、「（公社）静岡
県珠算協会」松村会長、松家監事、
宮崎監事が指名された後、議題に入
りました。

四、議題
（一）（公社）全珠連静岡県支部「平
成二十六年度事業報告」に関する件
（二）（公社）静岡県珠算協会「平
成二十六年度事業報告」に関する件
別紙配布資料にて深澤総務
部長より説明後、いずれも挙手多数
にて承認された。
（三）（公社）全珠連静岡県支部「平
成二十六年度決算報告」に関する件
（四）（公社）静岡県珠算協会「平
成二十六年度決算報告」に関する件
別紙配布資料にて栗田会計



（一）「第五十一回静岡県そろばん
の日」について
日時：平成二十七年八月二十四日
（月）午後十二時三十分開式
会場：グランシップ中ホール「大地」
受賞者：五百七十七名（内欠席七十
七名）付き添い六百七十七名 参加
者合計千百七十七名（別紙配布資料
にて役割分担等の説明あり）

（五）監査報告 監査委員、監事
を代表して松家監査委員・監事から
七月十二日に監査会を開催し厳正に
監査したところ、収支、決算書は適
切に作成されているとの報告があつ
た。
*（三）、（四）いずれも挙手多数で
承認された。

(二) 松村支部長より

『そろばんの力(うちわ)』の活用方法を各地区・地域で検討して欲しい。

『全日本通信大会』の現在の六会場から三会場にすることに対し、各地の意見を。各地区の意見を集約して、執行部で判断していただきたい。

『地区統合』についてのメリット、デメリットについてみなさんの知恵と考えを。安全で子供が喜ぶ組織にしていきたいので、是非ご協力を。

回は一〇名もの新入会員の先生が参加をされていました。

新入会員研修会

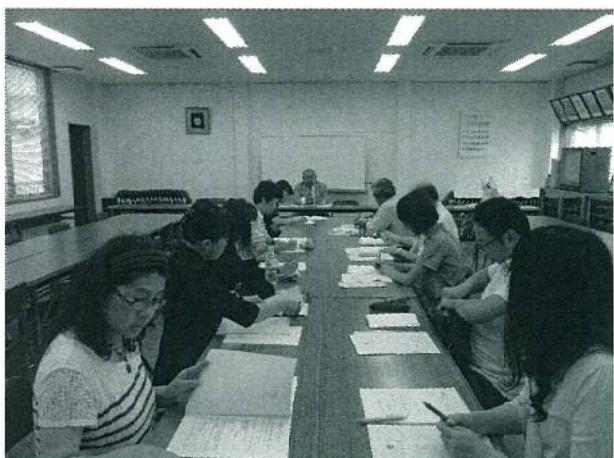
富士地区 土屋涼子

雨の雪をまとった緑たちの輝きが梅雨明けを待ちわびて揺れる七月の十二日。

静岡県珠算会館にて行われた新入会員研修会に参加をさせて頂きました。珠算会館へ向かう道中は、初めて行く場所に初めて出会う先生方、一体どんな場所でどんな出会いがあるのだろうと楽しみな気持ちが半分、不安な気持ちが半分でドキドキしながら向きました。

もしかして私ひとりだつたらどうしよう…と心配をしていたのですが、扉を開けてみたらびっくり!なんと今

ある日、小学二年生になつた娘が何か習い事をしたいと言い出しました。そこで私も一緒に親子二人で富士地区の増田先生の塾にお世話になることになりました。数十年ぶりに再開した珠算の練習。楽しくて楽しくて、本当に



まずは支部長の松村先生より、昭和十七年に十三名で発足した静岡県珠算協会が今日に至るまでの歴史を紐解いて頂き、これから静岡県支部は「对话と協調」を大切にしながら様々な改革に取り組み窓口を広げていきたいとお話を頂戴致しました。

その後は、総務部長の深澤先生・会計部長の栗田先生・珠算検定部長の荒木田先生・暗算検定部長の伊藤先生・静珠協検定競技部長の竹内先生・研修部長の山田先生よりそれぞれの分野での様々なお話を頂戴致しました。

私が珠算と出会つたのは、小学校三年生。当時小学校の授業で珠算の授業があり、初めて「そろばん」に触れてとても楽しく、両親に珠算塾に通いたいとお願いしたのが始まりで中学三年生まで続けました。

学生時代の六年間で習得した珠算・暗算の技術は、正確さやスピードは落ちるものとの基礎となる技術はしつかりと身に付いていて、大人になつてからも日常生活の色々な場面で役に立つていました。またいつか珠算をやりたいと思いつつもなかなか珠算に触れることもなく時は過ぎ…。

ある日、小学二年生になつた娘が何か習い事をしたいと言い出しました。新入会員研修会の一一番最初に松村支

珠算をやつていて良かつたと改めて思つた瞬間でした。

増田先生の指導を受け、目標に向かって日々の練習に励み、検定試験を受け、試験の結果に一喜一憂して…。

子供たちと一緒に、子供たちと同じ目線で色々な事を経験させてもらいました。ドキドキしながら迎える検定試験。いつもより短く感じる七分間。昇段出来なかつた時の悔しさ、昇段した時の喜び。合格シールをそろばんに貼る時の嬉しさ。

一般で参加させてもらった全日本通信珠算競技大会。まわりの選手たちの珠を弾く音がものすごく速く聞こえて焦る気持ち。練習の成果が發揮できな

なります。

新人会員研修会で各部会の先生方からお話を伺い、これまで自分に与えら

れていた検定試験や競技会・表彰式などの活躍の場や自分の力を試せる場は、こんなにも沢山の先生方のご尽力のもと成り立つてあるんだということを改めて知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

自分自身が経験してきた表舞台からの目線と、これからは裏舞台からの目線。両方の角度から感じる様々なことを今後の自分の活動に生かしていくべきだと思います。

新入会員研修会の一一番最初に松村支

いもどかしさ。入賞出来ず情けない気持ち。同じ塾の仲間が入賞した時に自分の事のように嬉しかつたこと。

静岡県そろばんの日は娘が表彰を受ける時の感動。大人も子供もみんなが夢中になる抽選会やフラッシュ暗算。

また生徒のひとりとして「そろばんの日」の作文を書いた事もありました。

こうして振り返つてみると、私は今まで表の舞台から静岡県珠算協会と全国珠算教育連盟を見てきました。それ

今まで自分自身をそんな風に思つた

ことがなかつたので、この言葉に身の引き締る思いがしました。

去年の夏に珠算塾を開こうと決意し、バタバタと準備をはじめ、めまぐるしく環境が変化していく中、何とかはじまり、気付けば現在に至ります。松村支部長のその言葉に、改めて自分が城を構えたんだということを考えさせられました。小さいけれど城を築いたからには全力でその城を守り、良き城となるよう努力し、その城にいる人の和を大切にし、人の和から広がる縁に感謝し、いつかもっと大きな城となるように日々精進していこうと大きな志を抱きました。

さて、これを書いている本日、東海地方は梅雨明け。いよいよ本格的な夏がやつてきました。

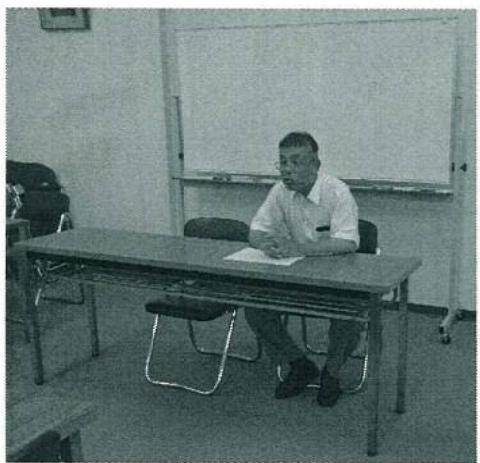
降り注ぐ太陽の日差しの中、いつも元気いっぱいのそろばんKIDSたちに負けないように、指導者一年生の私も元気いっぱい頑張ります！

結びに、新入会員研修会では各先生の貴重なお時間を頂きあいがとうございました。これからもご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

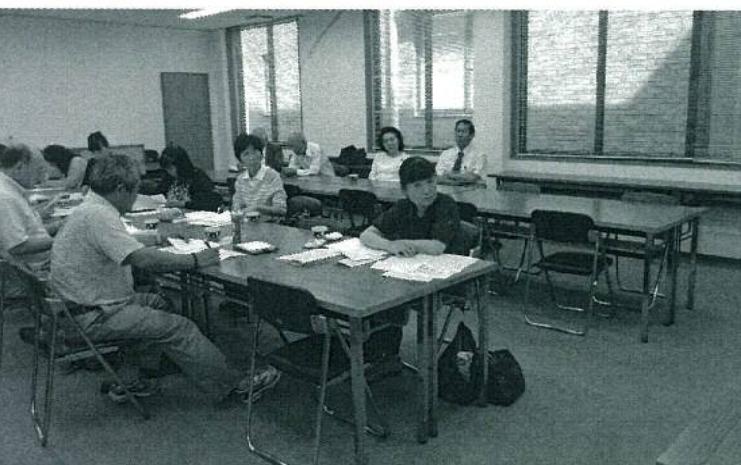
新入会員研修会に参加して

浜松地区 尾崎勝也

大会議室において新入会員研修会が開催されました。司会進行は山田佳世先生がなされ、講師の先生方が順にお話し下さいました。



はじめに、静岡県支部長の松村先生がユーモアを交えて全珠連の歴史や会員としての心構えをお話しさいました。続いて総務部長の深澤先生が「そろばんの日」表彰のご苦労されていました。お話し、会計部長の栗田先生からは会員としての会計処理の諸注意、珠算検定部長の荒木田先生からは珠算検定申込時の注意点の詳しいご指導をいただきました。



てお話を伺いました。全珠連検定・暗算検定・静珠協検定においては、少しども多くの生徒を受験させたいと思っています。最後に、研修部長の山田先生から、珠算教育士に関する詳しい説明を受けました。

私は会員になつて一年半になりますが、講師の先生方のお話を伺いながら、自分ではわかつていたつもりだったことが、はつきりと確認できることが非常に良かったと思つています。ここに至るまで地区の会員の先生方にご迷惑ばかりかけて、まだ全珠連会員としての自覚と責任が欠けていたと改め

て痛感しました。

新入会員研修会が行われた静岡県珠算会館二階の大会議室には、歴代の部長先生の写真が飾られています。私が幼いころにお会いした先生方もいらして懐かしく思いました。と同時に諸

先生方がこれまで全珠連・静珠協を維持・発展させてこられたことを思うと本当に頭が下がる思いでした。

これまで私は、珠算を教えてはいましたが、高等学校の講師と学習塾の仕事で忙しくしていて、父にまかせつきました。約二年前に父が亡くなり珠算の仕事を引き継いだものの、まだ不安だらけです。でも珠算を教える中で、生徒が理解してくれ、目標をクリアーしてくれた時の共に感じる達成感、充実感は何ものにも代えがたいものだと思っています。

しかし、少子化の現在では生徒一人の性格に合わせてほめたり、叱ったり、なだめたりと振り回されているのが現状です。少しでも生徒がやる気を起こしてくれるようになんばつてみるつもりでいますが、これからも諸先生方の教えるテクニックを参考にさせていただきたいと思っています。

新入会員研修会という機会をつくってくださった執行部の先生方、会員の諸先生方、本当にありがとうございます。微力ではありますが珠算教育に参加させて頂きたいと思っています。

平成二十七年度

第一回研修部会だより

平成二十七年七月二十六日(日)珠算会館にて、第一回研修部会が開催されました。

①研修部運営方法について

県内を三ブロックに分け、それぞれ取りまとめ役の先生を。部会が終了したら、全部員にファックスで、決め事を流す。

②「そろばん静岡」について

地区だよりの担当地区を決定。原稿用紙は、配布済。返信用封筒は、次回の新聞に同封。原稿締切は、発行月の前月十日まで。三月と七月は、できるだけ早めに。

③来年度、『作文・詩コンクール』の佳作を送付する時に、原稿用紙の裏に漢字の名前、ふりがなを書く。

④今年度の『作文・詩コンクール』参加賞→ワンピース五段ファイル 佳作賞→ミズノフリーケース

⑤地区別研修会について

地区別研修会を実施する地区は、報告を。全研修部員に知らせる。参加希望者がいたら、部長まで。

⑥次回ブロック別研修会担当地区は、東部(三島)、中部(静岡)、西部(中遠)に決定。

終了後、三日以内に部長に必要書類



を。また、「そろばん静岡」に原稿を。
⑦教材、教具研究会について
買ひ物は、清水地区の村田先生と静岡地区の鈴木先生にお願いしました。

今回より飲み物は、ビール、ノンアル

コールドビール、酒のみ。差し入れは、すべて遠慮する。

(後日、理事会にて承認)「そろばん静岡」の記事は、石田先生に。

⑧全国珠算研究集会について

来年三月、愛知県で開催なので会員には是非参加するよう勧める。

⑨「珠算指導者講習会」について

来年度から総会と同じ日に開催。地区ごとに席が決められたら良いけど。

⑩来年七月の研修部会について

研修部員の総意で、全員参加の部会を希望する。

(後日、執行部会にて他部会との兼合があるとの理由で却下)

先の大戦中、島田は昭和20(一九四五)年7月26日にバンブキンと称する模擬原爆が落とされた、いわゆる「島田空襲」を受けており、一方、敵爆撃機B29を撃ち落とすための電波兵器実験所を持っていたという、二つの大変な関与事件を経験している。

今回の展示会もこの二つの事件を中心として周辺の物件・資料を展示したものであり、その目的は「明日へと語り継ぐ願い」のサブタイトルどおり、70年後も続くことをねがう平和への希求にある。

島田空襲は市街地扇町の寺・普門院近辺に長崎型原爆と同じ1万ポンド(約5トン)特殊高性能爆弾バンブキン(南瓜)が投下され、この一個の爆弾で即死38名、負傷14名、全半壊51戸という被害が出たのだ。

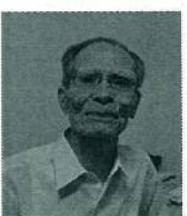
当時僕は小学(国民学校といつた)

「島田と太平洋戦争」

志太榛原地区 田 中 阳



島田・扇町公園内「平和之碑」



6年生、夏休み中の登校の帰宅途中で、北東から飛來した一機のB29を級友と共に見上げていたところ、キューン!と耳を裂くような音がしたと思うやドカーン!ともダーン!ともわからぬ大きな音と共に南西方面に黄黒い彗雲が立ち昇るのを見た。咄嗟に二人は傍らの水の無い小川に飛び込み、教えられていたとおりに耳と目を塞いで、じっと耐えた。「ここで死んでなるものか!」という思いだつた。級友は「大井川鉄橋がやられたのだ」と、またことを言う。気がつくと、僕は片方のズック靴しか履いていない。

6年生、夏休み中の登校の帰宅途中で、北東から飛來した一機のB29を級友と共に見上げていたところ、キューン!と耳を裂くような音がしたと思うやドカーン!ともダーン!ともわからぬ大きな音と共に南西方面に黄黒い彗雲が立ち昇るのを見た。咄嗟に二人は傍らの水の無い小川に飛び込み、教えられていたとおりに耳と目を塞いで、じっと耐えた。「ここで死んでなるものか!」という思いだつた。級友は「大井川鉄橋がやられたのだ」と、またことを言う。気がつくと、僕は片方のズック靴しか履いていない。

わてて川へ飛び込んだ際に小児マヒの右足の靴がどこかへ飛んでしまつたらしい。早く家へ帰りたい一心で、靴など探している心の余裕はなく、片方の足は裸足のまま一路、家へと向かつた。道の途中で、心配して迎えに来た母と遇う。物資不足の当時のズック靴一足は痛い損害だったわけだが、母はそのことは何も言わなかつた。あとで聞いたことだが、母校第四小学校は爆風で窓ガラスが破れたほどだつた。

朝8時34分という時刻なのに、僕らはなぜ学校を離れて下校途中であつたのか?これも思い出の一つである。

「島田と太平洋戦争」展入口右側に県立島田工業高校建築科有志諸君の平成26年度卒業制作作品「第二海軍技術廠”牛尾実験所”復元ジオラマ」が展示されている。上空を飛ぶB29までも模型されていて、その機燈の点滅が戦中の不気味を説く。

実験所前の集合写真を見ると湯川秀樹・朝永振一郎博士といつたノーベル賞級の科学者たちが、ここ島田で研究を積んでいたことが証しされ、妙な感じすらする。この研究が完成を見ることがなく終戦となつてしまつたことについての複雑な気持ちは拭うことができない。しかし、原爆にしてもそうだが、先端科学といつたものが、武器として使われることの悲劇は、やはり20世紀を最後としてほしものだ。

ことしの夏も7月26日、島田市扇町

公園内爆心地において、「島田空襲被爆者慰靈のつどい」が行われ、市長ほか遺族者および一般市民が参加。黙祷、献花、平和への誓い、コーラス等々が契られた。昨年、島田市は女性新市長のもと「島田市平和都市宣言」が採択されている。

新入会員紹介



本山二三子
(もとやま ふみこ)
昭和37年10月4日生



松田徳江
(まつだ とくえ)
昭和37年4月13日生



土屋涼子
(つちや りょうこ)
昭和52年2月17日生



長倉まり子
(ながくら まりこ)
昭和31年5月26日生

〈浜松地区〉
本山そろばん教室

〈浜松地区〉
もみの木くらぶ

〈富士地区〉
珠算塾 涼風館

〈志太榛原地区〉
清水そろばん教室

公園内爆心地において、「島田空襲被爆者慰靈のつどい」が行われ、市長ほか遺族者および一般市民が参加。黙祷、献花、平和への誓い、コーラス等々が契られた。昨年、島田市は女性新市長のもと「島田市平和都市宣言」が採択されている。

十月・十一月の行事予定

- ◎十月四日(日) 第二回 段位審査会
- ◎十月十八日(日) 全日本通信珠算競技大会
- 毎日パソコン入力コンクール予選会
- ◎十月二十五日(日) 第三六九回 暗算一～八級検定

| | | | |
|---------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------------------|
| | | | |
| 杉山恵理 (すぎやま えり) 昭和57年6月3日生 | 市川裕己 (いちかわ ひろき) 昭和48年12月19日生 | 早川敏美 (はやかわ としみ) 昭和35年3月23日生 | 橋本義雄 (はしもと よしお) 昭和26年11月26日生 |
| 〈沼津地区〉 すぎやま珠算教室 | 〈沼津地区〉 市川珠算教室 | 〈浜松地区〉 小豆餅珠算塾 | 〈浜松地区〉 育英珠算きらり教場 |
| 参 段 | 準 四 段 | 四 段 | ○第三六八回 珠算検定試験 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|-----------|-----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 内山 大樹 | 伊藤 優貴子 | 伊藤 外岡 | 伊藤 奈津 | 伊藤 土屋 | 原 菜々美 | 大場 松本 | 山本 梶村 | 山本 佐藤 | 山本 三浦 | 大場 松本 | 山本 幸見 | 山本 一宮 | 田中 矢野 | 田中 莉子 | 田中 雅凪 | 静岡 大成中三年 |
| 浜松萩丘小三年 | 掛川第二小六年 | 静岡清水船越小六年 | 静岡東源台小六年 | 伊藤明子 | 伊藤萌絵 | 伊藤悠太 | 伊藤えみ | 伊藤有那 | 伊藤菜々香 | 伊藤日菜 | 伊藤えみ | 伊藤百合 | 伊藤綾音 | 伊藤太騎 | 伊藤雅凪 | 県立浜松東高二年 |
| 浜松萩丘小六年 | 掛川附属静岡中二年 | 伊藤新之助 | 伊藤奈津 | 伊藤明子 | 伊藤萌絵 | 伊藤悠太 | 伊藤えみ | 伊藤有那 | 伊藤菜々香 | 伊藤日菜 | 伊藤えみ | 伊藤百合 | 伊藤綾音 | 伊藤太騎 | 伊藤雅凪 | 県立浜松東高二年 |
| 内山 大樹 | 伊藤 優貴子 | 伊藤 外岡 | 伊藤 奈津 | 伊藤 土屋 | 原 菜々美 | 大場 松本 | 山本 梶村 | 山本 佐藤 | 山本 三浦 | 大場 松本 | 山本 幸見 | 山本 一宮 | 田中 矢野 | 田中 莉子 | 田中 雅凪 | 静岡 大成中三年 |
| 浜松萩丘小六年 | 掛川第一小六年 | 伊藤新之助 | 伊藤奈津 | 伊藤明子 | 伊藤萌絵 | 伊藤悠太 | 伊藤えみ | 伊藤有那 | 伊藤菜々香 | 伊藤日菜 | 伊藤えみ | 伊藤百合 | 伊藤綾音 | 伊藤太騎 | 伊藤雅凪 | 県立浜松東高二年 |

昇段者氏名

- ◎十一月一日(日) 第二回 全珠連競技部会
- ◎十一月八日(日) 第三七〇回 暗算段位検定
- ◎十一月二十九日(日) 第三七〇回 暗算段位検定
- ◎十一月二十九日(日) 第三六九回 静珠協珠算検定

